

論文剽窃チェックツールの活用による論文不正防止の意識向上と、e-learning 教育システムを用いた研究倫理教育の高度化への取組。

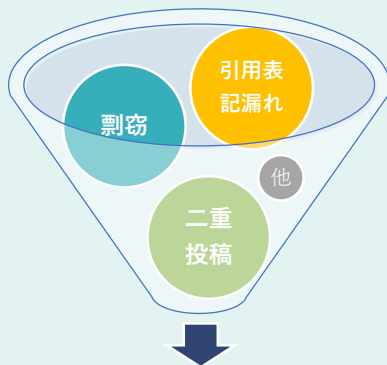


本事業のポイント

●世界の学術出版社と同じチェックシステム

世界の主なジャーナルが加盟しているCross Checkを利用した、Turnitin社の提供する論文剽窃チェックツールiThenticateを導入

- 平成26年度6月に当ツールの利用を開始
(導入時には学内3キャンパスで操作説明会を開催)
- 対象論文:ユーザー本人がこれから新たに発表する論文
→ 今後大阪大学から発表する論文の不正を防止することが目的
- 1人当たりの利用回数制限は設けない
- ユーザー登録の申請があれば、原則翌日には手続きを完了



iThenticateによる剽窃チェック

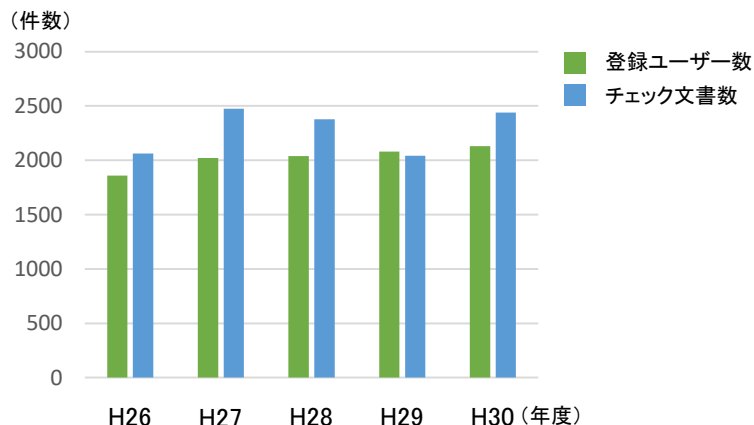
自己剽窃の防止
共著・引用部分の正当性の確認

●研究倫理教育の高度化

全学的にe-learning 教育システムを活用



取り組み実績と得られた成果



特に医学系研究科では、原著論文の確認事項として筆頭著者又は責任著者にチェックを義務付け

→ 自己剽窃や共著者の剽窃防止につながるだけでなく、論文投稿時のマナーを再確認させるとともに、筆頭著者、責任著者の当該論文に対する責任を認識させるなど、論文執筆に際しての研究倫理意識の醸成に役立っている。



今後の課題

- 引き続きツールを利用し、研究者の倫理意識の向上を目指す
- ツールの利用促進を図り、ユーザー数及びチェック文書数を増加させる